

会 議 録

会 議 の 名 称	西東京市教育計画策定懇談会（第3回）
開 催 日 時	平成29年11月28日(火) 午前9時00分から午前11時00分まで
開 催 場 所	西東京市役所防災センター講座室2
出 席 者	【委員】遠藤委員、川村委員、三橋委員、田中委員、浅沼委員、本名委員、大橋委員、渡邊委員、服部委員、石田委員、山村委員、伊藤委員 【欠席委員】武藤委員 【事務局】渡部教育部長、南里教育部特命担当部長、早川教育企画課長、内田教育指導課長、清水教育支援課長、岡本社会教育課長、大橋公民館長、中川図書館長、大谷教育企画課長補佐、河合学校運営課長補佐、平井公民館事業係長、和田企画調整係長、齋藤企画調整係主事、利根川企画調整係主事 【傍聴人】0人
議 事	(1) 会議録の確認について (2) 教育に関するアンケート調査中間報告について (3) 計画策定におけるヒアリング調査の実施について (4) その他
会 議 資 料	資料1 西東京市教育計画策定懇談会第2回会議録（案） 資料2 西東京市教育に関するアンケート調査 調査結果中間報告書 資料3 西東京市教育計画策定のためのヒアリング調査の実施概要（案）
記 録 方 法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>(1) 会議録の確認について</p> <p>事務局から前回会議の委員名を特定できなかった旨を説明 I委員、D委員から意見をいただいたが、今回に限り委員名を特定しないことで了承を得た。</p> <p>(2) 教育に関するアンケート調査中間報告書について</p> <p>事務局（委託業者） 小学生、中学生調査結果（資料2）について説明</p> <p>F委員 娘が調査の対象だったが、問23（過ごす場所）と問54（学んでいる場所）の答えが書きづらい部分（特定しづらい）があったと言っていた。</p> <p>B委員 28ページの間47の自分のことが好きという回答が高まっているのは施策等による効果など理由があるのか。また、「地域の人が見守っていると感じる」が中学校では少ないが、何を求めているか。</p> <p>J委員 自己肯定感については、統計的な優位な検証が得られているか。</p>	

事務局（委託業者）

集計を締めた段階で統計的な検証をする。

J 委員

回答者の取り方によっても違いがあるから、公表する際には丁寧な伝え方が必要である。

K 委員

21 ページの間 33（中学生調査は 53 ページの間 35）の小学校は交通の見守りなど地域との関わりがあるが、中学校になるとそれら関わりが少ないため、関わりの度合いの違いの結果ではないか。

I 委員

中学生は、大人になろうとしているから、地域に望むことが「ない」というのはノーマルな回答だと思う。

G 委員

5 ページの間 7 の学校で楽しくないと思ったことで「学校でやりたくないことが多い」というのは複数の原因があると思われるので、クロス集計を期待する。また、学校や先生に求めることとして「平等」ということに対して、学校では何が不足して何を求めているか分析はできるだろうか。

C 委員

5 ページの間 7 については計画策定の中で重要な設問である。

K 委員

やりたくないこととは、自分が好きでないこととして答えていると思う。

J 委員

自分がやりたいこととは得意なこと。

E 委員

月に何冊読むかという設問はもう少し丁寧に聞いて欲しかった。

D 委員

自分のことが「好き」というのが増えているとしても、一方で自信をなくしている人もいるという現状をみなくてはいけない。また、中学校になると部活があるため、地域との関わりは少なくなる。

H 委員

22 ページの間 35 の災害の避難場所は知られているが、17 ページの間 26 では、家庭では災害に関する話が話されていないので、親と災害について相談できるようになるといいかと思う。

L 委員

自尊感情を上げることは日本中で話題になっているが、自分のことが好きな方がいいと、浅いレベルで子どもたちが回答している可能性がある。もう少し深いところでの分析が必要ではないか。

B委員

不登校の子どもはこの数字に入っているか。

事務局

調査実施日に欠席している場合は含んでいないが、学校によっては後日行ったところもある。

事務局

青少年、一般市民調査結果（資料2）について説明

H委員

71 ページの間 16 のどのような学習や活動をしているかで郷土資料室等を利用してみようと思わないというのが高いのは、展示物等の変更がされていなかったりするのではないか。もっとイベント的に実施してみたらどうか。

座長

そのあたりの充実は、西東京市の地域に関することを学習するためにも必要な取組かもしれない。

I委員

123 ページの間 38 の子どもたちを取り巻く環境の変化で、電子機器等への環境の変化が出ると思ったが、あまり出なかった。

(3) 計画策定におけるヒアリング調査の実施について

事務局

ヒアリング調査の実施概要（資料3）について説明

C委員

保育園の先生にも聞いてほしい。

B委員

障害の団体は具体的に決まっているか。いろいろな障害や年代を対象とできる団体に聞いてほしい。

G委員

公民館については、情報発信があれば利用したい人が多いことから、そのあたりに着眼して聞いてほしい。子ども条例の策定が始まっているので、子どもに関わる大人の視点として、人権擁護委員、民生児童員、保護司の方などに聞いてほしい。

B委員

新しい取組として、L教室、S教室があるので、一般先生とは別にその先生に対する意見も聞いてほしい。

座長

特別支援教室の先生には別に聞き取りができるのか。また、教員向けのアンケートについての意見はどうか。

J 委員

西東京市の教育計画ということで、教育とは学校教育が担う部分が多い。学校教育については、欧米では学習だけでいいのではないかという考えもある中で、日本の学校はあらゆるものについてがんばっている。しかし、学校だけですべて担うのは困難な部分がある。焦点化されることは仕方がないが、地域や家庭も含めトータルで考えていただきたい。

K 委員

特に問題ないと思う。「西東京市の」と書かれているが、教員はそのように考えていない。地域によっての特色があり、これまでの自身の経験で解答するので、西東京市のみについての解答とはならないと思う。また、職場環境については都教委で取りまとめられている。その中で実施するので、結果に結び付けてほしい。

座長

せっかく実施するのであれば実のあるものにしてほしい。
「勉強」という言葉が使われているところがあるが「学習」と変えていただきたい。

E 委員

図書館でのおはなし会を実施している団体があるのでそちらにも聞き取りしてほしい。

L 委員

教職員についてのアンケートで教員自身が当事者として実施するのはいいのではないかと思う。問8について、西東京市レベルでできる問題とそうでないものがあったりするのではないか。

座長

ここで言っている「夜間塾」はどのようなものか。

K 委員

公立学校教育と考えるのであれば不適切ではないか。その他、時代遅れの選択肢もあるのではないか。

J 委員

問8については制度のことなのか、いろんな内容が混在している。

座長

問8については、教育の問題なのか、制度のことなのか、場合によっては市内の校長先生に聞くなりして再検討でお願いしたい。

E 委員

問9についてすべて重要だと思われるが、回答できるのか。

K 委員

西東京市のことなので、地域性で特につけさせたいものとしては回答が得られるかもしれない。

座長

意識の調査なので、先生がどのように見ているのか地域性が出るとされるし、意味はあるのではないか。

H委員

問9で重要なことについては、「今後大事にしていきたいこと」の方が回答しやすいのではないかと。

座長

問9についても再検討をお願いしたい。

D委員

理想と現実のギャップは激しいと思う。現実で悩まれている先生方も多いと思われるので、理想はここまでというところがでてくるだろうか。

座長

出てきた回答をどう読み取るかが難しいところではないかと。

H委員

「子ども」は「子供」とすべきか「子ども」とすべきか。

K委員

東京都の教育委員会は「子供」を使っているが、西東京市では「子ども」で統一している。

座長

皆さんからいただいた意見をヒアリング調査に活用していただきたい。

(4) その他

次回の日程は1月30日(火)、次々回は2月16日(金)で調整中

以上